

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06202
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学	開催方法 (キャンパス・施設)	■対面 (広島キャンパス) □オンライン (同時・録画)			
2. 科目名	「共生」から世界を読み解く：歴史的視座と現代的課題を中心に					
	学問分野	番号	42	名称	教養 (総合科学など)	
3. 担当教員	地域創生学部 地域創生学科 国際共生コース 岡本弘道 (准教授)、植村広美 (教授)、杉山聖子 (准教授)					
4. 開講期間 (曜日)	令和 8 年 7 月 25 日 (土) ~ 令和 8 年 7 月 25 日 (土)					
開講時間	9 時 00 分 ~ 12 時 20 分 (60 分 × 3 回)					
個別開講日	1 回目 7/26	2 回目 /	3 回目 /	4 回目 /	5 回目 /	6 回目 /
5. 募集定員	150 人					
6. 科目内容・授業計画	<p>令和 8 年度から新設予定の県立広島大学・地域創生学部・国際共生コースでは、さまざまな文化的背景をもった人々がどのように共生していくか、多様な地域の歴史・文化をどのように継承し、活かしていくかを学ぶことができます。本講義では、本コースに所属する 3 名の講師が、それぞれの研究分野の知見をもとに、「共生」というテーマで高校生のみなさんにお話します。</p> <p>(1) 岡本弘道「台湾問題の歴史的経緯を考える」(9:00-10:00) 本講義では、近年緊張度を増している台湾の帰属を巡る問題について、その歴史的経緯を中心に取り上げます。前近代における中国人や日本人、ヨーロッパ人などの活動の中で台湾がどのように扱われてきたのか、近代以降の国際情勢の変化に伴ってその位置付けがどう揺れ動いていったのかを踏まえ、国民国家・民主主義・国際協調などをキーワードとして様々な視点から検討します。</p> <p>(2) 植村広美「日本における多文化共生施策と子どもの教育」(10:10-11:10) 本講義では、日本で進められている多文化共生施策について紹介し、そのなかでも外国にルーツをもつ子どもの教育課題に焦点をあててお話しします。そもそも、なぜ日本では外国人労働者を受け入れるに至ったのか、そして異なる言語・文化的背景をもつ者同士がともに生きる社会のあり方について考えてみたいと思います。</p> <p>(3) 杉山聖子「高度成長期以降の混住型地域社会」(11:20-12:20) 本講義では、東広島市黒瀬町を事例として、農家中心の農村地域社会が、非農家を多く抱え込んだ混住化地域社会へと移行していった歴史過程を取り上げます。高度成長期以降の黒瀬町では、町民の大部分を占めた農家 (旧住民) の離農・兼業が進むなかで、集落に隣接した里山が宅地開発されて、町外からの転入者 (新住民) が大幅に増加しました。景観や生活の変化を紹介するとともに、混住化社会 (新旧住民の共生社会) の地域問題についてお話しします。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) 不要					
9. 開講条件 ※1 あり・ない	最少開講人数 (5 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日：6 月末まで					
その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン (同時・録画) の使用ソフト、受講時の注意など なし					
開設大学への交通手段	https://www.enica.jp/ 開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。